

リレーエッセイ

ハードルを越えて 48

上浦（かみうら） 和也（かずや）さん
（薩摩川内市）

私は昨年の12月に開催された「第44回肢体不自由児・者の美術展/デジタル写真展」において、作品「癒されタイム」で金賞を受賞することができました。

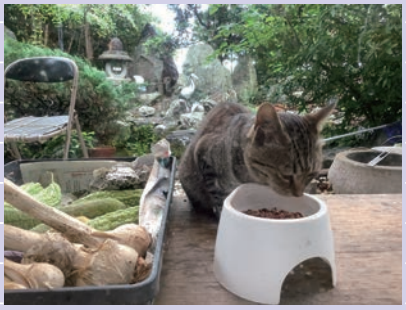
受賞の知らせを聞いたときは、「よっしゃー!」と心の中で大きな喜びがわき上がりました。嬉しくて学校の先生方や施設の職員の方々にも「金賞を受賞したよ」と報告して回り、周りの皆さんから「すごいね」とたくさん褒めていただいたことが、私の大きな自信につながりました。

私が初めて写真を撮ったきっかけは、中学校の宿題で「日常の風景を撮る」という課題が出たことでした。もともと猫が大好きで、自宅でも猫に囲まれて過ごしてきました。小学校5年生の時にウィルソン病を発症し、これまでのような生活ができなくなるという大きなハードルに直面しましたが、そんな大変な時でも、愛猫たちがいつもそばに寄り添って私を励ましてくれました。

受賞した写真に写っているのは、近所にやってくる野良猫の「茶々丸」です。警戒心が強くすぐに逃げてしまうため、驚かせないように息を潜め、タブレットの画面越しにご飯を食べているリラックスした瞬間をじっと狙いました。撮影の際には、姉や妹も協力してくれて、家族みんなに見守られながらシャッターチャンスを待ち構えていました。猫の一番いい瞬間や楽しい思い出を形として残せる写真には、大きな魅力を感じています。

現在、私は串木野特別支援学校の高等部に通っています。学校や施設では友だちと過ごす時間も楽しく、病気を発症してからは、支えてくれる周りの人々への感謝の気持ちがより一層強くなりました。いつも温かく見守ってくれる家族の存在は私の大きな支えであり、私を題材に書いた妹の作文が優秀な成績を収めて新聞に掲載されたときには、私もその記事を大切に写真に収めて、家族みんなで喜びを分かち合いました。

これからの目標は、「パソコンを使った仕事に挑戦してみたい」ということです。そして、これからも大好きな猫の姿や、旅行した時などの思い出をたくさん写真に撮り続けていきたいと思っています。家族の温かいサポートを受けながら周囲への感謝を忘れず、自分のペースで大好きな猫たちの素敵な瞬間をたくさん切り取っていきたいです。



金賞を受賞した作品「癒されタイム」です。すぐ逃げてしまう茶々丸を驚かせないよう、一瞬の隙を狙いました。



猫を撮る時間が一番楽しいです。大好きという気持ちを込めた一枚で、受賞することができました。